

所員活動一覧（二〇一八年四月一日～二〇一九年三月三一日）

荒木 浩

●論文

「『独生独死』観の受容と「翻訳」論的問題―中世の孤独と無常をめぐる―」『物語研究（特集「翻訳」）』一八号 物語研究会 二〇一八年四月 三頁～一二頁（依頼論文・査読付き）

「海外での古典研究と教育―その実践と展望について」『ベトナムにおける日本語教育と日本研究―人材育成のための連携可能性を巡って』ハノイ 国家大学外国語大学 二〇一八年七月 二六頁～三八頁（依頼論文・査読付き）

“Rêve et vision dans la littérature japonaise classique: notes pour la lecture du Roman du Genji.” (フランス語) *Extrême-Orient Extrême-Occident* 42, Presses Universitaires de Vincennes, December 2018, pp. 73–98 (依頼論文・査読付き)

「源隆国の才と説話集作者の資質をめぐる検証―研究史再考をかねて―」倉本一宏編『説話研究を拓く―説話文学と歴史史料の間に―』思文閣出版 二〇一九年二月 一四二頁～一六一頁（依頼論文・査読付き）

「フキダシをめぐる夢の形象―中日交流の視点から」『古代学研究所紀要』第二七号 明治大学日本古代学研究所 二〇一九年三月 一三頁～一九頁（依頼論文・査読付き）

●その他の執筆活動

「文遊回廊」（連載一二回）『京都新聞』二〇一八年四月二六日号～二〇一九年三月二八日号（査読付き）

「対談 ラウンドテーブル・総合討議」（金水敏他と）『日本研究をひらく―「国際日本研究」コンソーシアム記録集2018』晃洋書房 二〇一九年三月

石上 阿希

●その他の執筆活動

「インタビュール うらめしい春画」田中圭子著『うらめしい絵』誠文堂新光社 二〇一八年八月

「解説『女大楽宝開』と中国養生書」早川聞多翻刻、アンドリュ・ガーストル英訳『日文研叢書57 日文研所蔵 近世艶本資料集成VI 月岡

雪鼎3『女大楽宝開』国際日本文化研究センター 二〇一八年一月

「翻訳（分担執筆）『女大楽宝開』解説」早川聞多翻刻、アンドリュ・ガーストル英訳『日文研叢書57 日文研所蔵 近世艶本資料集成VI

月岡雪鼎3『女大楽宝開』国際日本文化研究センター 二〇一八年一月

「インタビュール 江戸の色つや、いまに彫り出す 春画の木版画復刻 京都の職人・研究者ら」『朝日新聞』 二〇一八年二月五日

「インタビュール 傑作春画「袖の巻」全12図復刻プロジェクト」（高橋由貴子と）『週刊ポスト』 一月一八日・二五日合併号 二〇一九年一月

「ド・ロ版画／版木取蔵一覧」郭南燕編著『ド・ロ版画の旅ーヨーロッパから上海へ長崎への多文化的融合』創樹社美術出版 二〇一九年三月

「解説『ビエールセルネ&春画』展」（ビエール・セルネ、浦上満と共著）『ビエールセルネ&春画』展図録』シャネルネクスホール

二〇一九年三月

「特集 研究とともに創る『日文研コレクション』 描かれた「わらい」と「こわい」ー春画・妖怪画の世界ー」展開催「人間文化研究機構基幹

研究プロジェクト ニューズレター きふし』 vol.3 人間文化研究機構 二〇一九年三月

「インタビュール 春画秘めやか美技 京都の職人ら名作復刻中」（高橋由貴子と）『中日新聞』 二〇一九年三月三〇日

石川 肇

●その他の執筆活動

「インタビュール「抵抗の文学」ではなかった」『京都新聞』 二〇一八年四月二日

「インタビュール 鳥瞰図・広がる領土」『京都新聞』 二〇一八年一〇月二二日

「戦前のツーリズムとは」『朝日新聞』（夕刊） 二〇一八年一〇月二五日

「インタビュール 川端「古都」執筆に焦り」『読売新聞』他一二新聞掲載 二〇一九年二月三日他

磯田 道史

● 著書

『影の日本史にせまる…西行から芭蕉』（嵐山光三郎と共編）平凡社 二〇一八年八月 二一六頁

『戦乱と民衆』（倉本一宏、フレデリック・クレインス、呉座勇一と共著）講談社 二〇一八年八月 二〇四頁

『NHK英雄たちの選択江戸無血開城の深層』（NHK「英雄たちの選択」制作班と共編）NHK出版 二〇一八年九月 二一六頁

『日本史の探偵手帳』文藝春秋社 二〇一九年一月 二七二頁

『災害と日本人』（中西進と共編）潮出版社 二〇一九年三月 二五六頁

● 論文

『禁門の変―民衆たちの明治維新』磯田道史、倉本一宏、フレデリック・クレインス、呉座勇一著『戦乱と民衆』講談社 二〇一八年八月

八三頁～一二二頁

『後桜町天皇と光格天皇の譲位』御厨貴編著、井上章一、磯田道史、河野有理、前田亮介、佐々木雄一、佐藤信、五百旗頭薫、国分航士、原武

史著『天皇の近代 明治一五〇年・平成三〇年』千倉書房 二〇一八年九月 二一頁～四三頁

● その他の執筆活動

『古今をちこち』（連載一二回）『読売新聞』二〇一八年四月一日～二〇一九年三月一三日

『書評 後藤典子著『熊本城の被災修復と細川忠利―近世初期の居城普請・公儀普請・地方普請―』『毎日新聞』二〇一八年四月一五日

『対談（耕論）歴史奪う、公文書改ざん』『朝日新聞』二〇一八年四月二五日

『次世代リーダー像は』『毎日新聞』二〇一八年六月五日

『書評 ブレット・キング著、上野博訳『拡張の世紀』』『毎日新聞』二〇一八年六月一〇日

『書評 刑部芳則著『公家たちの幕末維新 ペリー来航から華族誕生へ』』『毎日新聞』二〇一八年七月二二日

『書評 鈴木董著『文字と組織の世界史 新しい「比較文明史」のスケッチ』』『毎日新聞』二〇一八年九月二日

『そろばんが語る 津波の記憶』『朝日新聞』（夕刊）二〇一八年一〇月四日

- 「書評 今泉忠明監修、丸山貴史著『わけあって絶滅しました。世界一おもしろい絶滅したいきもの凶鑑』『毎日新聞』二〇一八年一〇月一四日
- 「対談 先人の知恵 防災に」(加藤朝胤と『読売新聞』二〇一八年一月二一日
- 「書評 J・ドナルド・ヒューズ著、村山聡・中村博子訳『環境史入門』『毎日新聞』二〇一八年一月二五日
- 「対談 日本でイノベーション起こすには 明治維新一五〇年」(斎藤茂と『日経産業新聞』二〇一八年一月三〇日
- 「インタビュー (おやじのせなか) 磯田道史さん シーツかぶり登場、奇妙な男」『朝日新聞』二〇一八年二月九日
- 「インタビュー 日本の針路 見据えて」『産経新聞』二〇一九年一月一日
- 「インタビュー 防災とは嫌われる決断」『読売新聞』二〇一九年一月六日
- 「書評 美濃部由紀子著『志ん生が語るクオリティの高い貧乏のススメ 昭和のように生きて心が豊かになる二五の習慣』『毎日新聞』二〇一九年一月二七日
- 「日本人とお金 来し方行く末」『日本経済新聞』二〇一九年二月一三日
- 「磯田道史が語る仕事―興味を追って仕事の核に」(連載四回)『朝日新聞ひろば』二〇一九年二月二一日〜二〇一九年二月二四日
- 「『梟の城』作家ら語る」『読売新聞』二〇一九年二月二二日
- 「書評 辻惟雄著『十八世紀京都画壇 蕭白、若冲、応挙たちの世界』『毎日新聞』二〇一九年三月一〇日
- 「インタビュー 改元に思う」『産経新聞』二〇一九年三月二〇日

磯前 順一

● 著書

『希望の歴史学——藤間生大著作論集』(藤間正大著、山本昭宏と共編)ベリかん社 二〇一八年八月 三六八頁

● 論文

“Transcendence and the Process of Subjectification, and then Sustainability—On Prasentit Duara's 'The Crisis of Global Modernity: Asian Traditions and A Sustainable Future,'” Yijiang Zhong eds., *Religious Studies Review* 44(2), Rice University, June 2018, pp. 183–190

「宗教概念論」から「宗教主体化論」へー島蘭進と安丸良夫の金光論を通して」『平和研究』第49号 早稲田大学出版部 二〇一八年七月
四七頁〜六二頁

「津波に吞まれてー否認とナルシシズムの日本社会」坪井秀人、シュテフィ・リヒター、マルティン・ロート編『世界のなかの〈ポスト311〉
ヨーロッパと日本の対話』新陽社 二〇一九年三月 六五頁〜九六頁

●その他の執筆活動

「インタビュー 一〇五歳歴史学者、三一年ぶり単著 編者の磯前順一・日文研教授に聞く」『京都新聞』二〇一八年一〇月二九日

「書評 『ひきこもりの国民主義』『アリーナ第21号』中部大学 二〇一八年一月

「書評 『グローバル近代の危機…アジアの伝統と持続可能な未来』（鍾以江と共著）『アリーナ第21号』中部大学 二〇一八年一月

「メロディなき爆撃音と表現衝動ー2013年夏、シアトルの博物館にて」『ジミ・ヘンドリックス伝説 (KAWADE 夢ムック 文藝別冊)』河出書房

新社 二〇一八年一月

「インタビュー 一〇五歳の歴史家 著作集 藤間生大さん「希望の歴史学」『読売新聞』（西日本版）二〇一八年一月一〇日

「インタビュー 一〇五歳 衰えぬ研究意欲 論集「希望の歴史学」刊行 藤間生大さん（合志市）『熊本日日新聞』二〇一八年一月一二日

「書評 荻原稔『井上正鐵門中・禊教の成立と展開』『週間読書人』二〇一九年一月二五号 二〇一九年一月

「インタビュー 探 老学者が託した歴史への「希望」『朝日新聞』（福岡版）二〇一九年一月二二日

「エッセイ 藤間先生と希望の歴史学」『熊本近研会報』五六六号 二〇一九年二月

「エッセイ 藤間生大氏の計報」『日本歴史』第八五〇号 吉川弘文館 二〇一九年二月

「レポート 汪暉氏との対話」『週間読書人』二〇一九年二月一五号 二〇一九年二月

「ヘンター通信」汪暉氏と歩く被災地・被差別部落ー新しい主体性の形成に向けて」『日文研』六二号 二〇一九年三月

伊東 貴之

●論文

“The Embodiment of the “Mind” in Neo-Confucianism: The Schools of Chu His (朱熹) and Wang Yang-ming (王陽明), and Concerning the Problem of Preceding Research” Contribution paper for WCP2018 • Beijing, WCP2018 • Beijing, August 2018, pp. 1-10 (査読付き)

「戦後日本陽明学研究史と荒木見悟的位置」(中国語) 講座暨工作坊『明清禪儒滙通・方以智と覺浪道盛』中山大学哲学系・中山大学禅宗与文化研究院 二〇一八年九月 五三頁〜六七頁 (依頼論文)

●その他の執筆活動

「大陸」へ／「大陸」から―東アジア規模で環流する文学と思潮【二〇一八年／中国文学・文化 年末回顧】『図書新聞』第三三八〇号 武久出版社 二〇一八年二月

「項目執筆 東アジアの公共圏」社会思想史学会編『社会思想史事典』丸善出版 二〇一九年一月

「中国語圏における日本研究―日本学・日本語教育の現状と国際日本研究専攻での経験から」坪井秀人、白石恵理、小田龍哉編『日本研究をひらく―「国際日本研究」コンソーシアム記録集2018』晃洋書房 二〇一九年三月

稲賀 繁美

●論文

“Genèse et préhistoire des écosystèmes: « l'ère vers la vie » géologique et « le milieu » proto-biologique,” (フランス語) AUGENDRE Marie, LORED Jean-Pierre, NUSSAUME Yann eds., *La mésologie, un autre paradigme pour l'anthropocène?*, Hermann, April 2018, pp. 265-273 (査読付き)

「日本画の前衛を戦後世界美術史に定位する：マッシュュー・ラーキングの『パン・リアル・戦後日本画の前衛』博士論文公開発表会より」『あいだ』一三九号 あいだの会 二〇一八年四月 三四頁〜三八頁 (依頼論文)

「A・K・クーマラスワミの事績からアジアを再考する(上)」ダッカ・アート・サミット DAS 2018 (二〇一八年二月八日―一日) に招待されて『あいだ』二四〇号 あいだの会 二〇一八年六月 一〇頁〜一四頁 (依頼論文)

「A・K・クーマラスワミの事績からアジアを再考する(下)」ダッカ・アート・サミット DAS 2018 (二〇一八年二月八日―一日) に招待されて『あいだ』二四一号 あいだの会 二〇一八年七月 二六頁〜三五頁 (依頼論文)

「藤田嗣治の『戦争画』再考：世界史・アジア史の視点から」『美術手帖』No. 1070 美術出版社 二〇一八年七月 一〇二頁～一〇七頁（依頼論文）

「ギュスターヴ・モローと亀」『図書』九月号 岩波書店 二〇一八年九月 二頁～七頁（依頼論文）

「柳沢史明『ヘンロ芸術』の思想文化史：フランス美術界からネグリチュードへ」黒人アフリカ世界の立体造形とその言説的観念史…ニグロ表象におけるトランス・アトランティックな「支配と抵抗のポリティクス」『あいだ』二四二号 あいだの会 二〇一八年九月 一四頁～一八頁（依頼論文）

「建国神話の海外受容から戦前期の海外日本展示へ…日仏美術学会・関西例会でのコメントから」『あいだ』二四三号 あいだの会 二〇一八年一〇月 二九頁～三九頁（依頼論文）

「日本美術と中国美術の〈あいだ〉（上）石橋財団国際シンポジウム（二〇一八年一月二日～四日）に出席して」『あいだ』二四四号 あいだの会 二〇一八年二月 三五頁～四三頁（依頼論文）

「日本美術と中国美術の〈あいだ〉（下）石橋財団国際シンポジウム（二〇一八年一月二日～四日）に出席して」『あいだ』二四五号 あいだの会 二〇一九年一月 二三頁～三一頁（依頼論文）

「冬のパリ・日本趣味関係美術展示の瞥見—装飾美術館「Japon/Japonismes 2018」展への批判的備忘録」『あいだ』二四六号 あいだの会 二〇一九年三月 一〇頁～一九頁（依頼論文）

●その他の執筆活動

「書評 持田季末子著『セザンヌの地質学—サント・ヴィクトワール山への道』」『図書新聞』三三四六号 二〇一八年四月

「『歴史に学ぶ』傲慢さと『歴史を学ぶ』無力さとの落差について」『竹山道雄セレクション』（藤原書店）刊行記念シンポジウムより」『図書新聞』三三四七号 二〇一八年四月

「対談 一九五〇年代の「職場」から生活に根差した「歴史」が立ち上がる」『職場の歴史』関係資料集 全四巻『復刻の意義を問う』（竹村民郎と）『図書新聞』三三四九号 二〇一八年四月

「Word and Image 学会にいたるアンヌ・マリ・クリスタンの若干の追憶—あとがきにかえて」『マリアンヌ・シモン』及川編『テキストとイ

メージ・アンヌ・マリ・クリスタンへのオマージュ』水声社 二〇一八年六月（査読付き）

「書評 田中修二著『近代日本彫刻史』『週刊読書人』三二四二号 二〇一八年六月

「タケミカヅチはなぜタケミナカタに自らの手を握らせたのか?」『古事記』『国譲り』の発話構造における神威発現の機制と策略」『図書新聞』三三五四号 二〇一八年六月

「オディロン・ルドンから武満徹へ」『閉じた眼』における夢の転生と霊の出現」『図書新聞』三三五七号 二〇一八年六月

「エッセイ 稽古所感」『かみはま合気道』二〇一八年度版 第二〇号 二〇一八年八月

「海賊史観・輪廻転生」そして華厳」『GA JAPAN 154』SEP-OCT 2018 エディター・エディター・トーキョー 二〇一八年九月

「ひとはいつ・いかにして親鸞によばれるのか」日本信仰思想史における宿命の周期律（前）」『図書新聞』三三六九号 二〇一八年一〇月

「ひとはいつ・いかにして親鸞によばれるのか」日本信仰思想史における宿命の周期律（後）」『図書新聞』三三七〇号 二〇一八年一〇月

「菜の音、詩の韻が伝える生命の息吹」東洋的養生と西洋近代の療法とのへあいだ」『図書新聞』三三七九号 二〇一八年一二月

「エッセイ 「能動」と「受動」とのへあいだ」『稽古雑感』『赤門合気道』平成三〇年度 第五九号 二〇一八年一二月

「「シンボジウム評」ジョン・ラファージュと東洋的霊性への開眼」初期北米ジャポニスムの一面」『ジャポニスム研究』第三八号 二〇一八年一二月

「[Thoughts on a Symposium] "John La Farge and the Awakening to Eastern Spirituality: An Aspect of Early North American Japonisme," *Studies in Japonisme* No. 38, Society for the Study of Japonisme, December 2018

「ゾラとセザンヌ」『すれちがった巨匠』の交友をめぐる解釈のパラダイム・シフトにむけて」『図書新聞』三三八〇号 二〇一八年一二月

「観音像はいかに世界を救うか?」戦争と平和のきざしに立つ「平和祈念像」の桎梏」『図書新聞』三三八九号 二〇一九年三月

「『方丈記』の「世界文学」仲間入りに、夏目金之助はいかに関与したのか」ワーズワースの汎神論、H・D・ソローの隠遁生活の傍らに鴨長明を位置づける」『図書新聞』三三九〇号 二〇一九年三月

「〈センター通信〉「日本の風」国際シンポジウムに参加して」『大衆文化研究』の余白に」『日文研』六二号 二〇一九年三月

井上 章一

● 著書

『パンツが見える。―羞恥心の現代史―』新潮社（文庫） 二〇一八年五月 四八三頁

『日本の醜さについて―都市とエゴイズム―』幻冬舎 二〇一八年五月 二三五頁

『日本史のミカタ』（本郷和人と共著）祥伝社 二〇一八年九月 二六四頁

『京都、パリ―この美しくもイケズな街―』（鹿島茂と共著）プレジデント社 二〇一八年九月 二六九頁

『大阪的―「おもろいおばはん」は、こうしてつくられた―』幻冬舎 二〇一八年二月 二四二頁

『ミッシェンスクールになぜ美人が多いのか―日本女子とキリスト教―』（郭南燕、川村信三と共著）朝日新聞出版社 二〇一八年二月 二四七頁

● その他の執筆活動

『海の向こうで、日本を考える』『高校生と考える希望のための教科書―桐光学園大学訪問授業―』左右社 二〇一八年四月 二〇〇頁〜二二五頁

「インタビュー リニアいらんでしょ」『京都民報』二八三〇号 二〇一八年四月

『講演資料等 歴史の中の阪神タイガース―アンチ巨人が増えたわけ―』『遼』六七号 二〇一八年四月

『対談 隈、妹島はコンドルの上に花開いた―戦後建築を理解するために知っておくべき明治―終戦期の建築家―』（磯達雄と）『プレモダン 建築巡礼』二〇一八年四月

「インタビュー 女子大生と美人論」『大学ランキング・二〇一九年版』朝日新聞出版 二〇一八年四月

『井上章一の大阪まみれ』（連載四回）『産経新聞』二〇一八年四月二日〜二〇一八年四月二三日

『講演資料等 世界の中で京都を考える』『西陣医師会創立七〇周年記念誌』二〇一八年五月

『海の向こうで日本は』（連載三三回）『産経新聞』二〇一八年五月七日〜二〇一九年三月二一日

「インタビュー 霊柩車 あなた色の送り方―背景に業者の演出力―」『朝日新聞』二〇一八年五月一三日

- 「書評 この人に訊け」（連載六回）『週刊ポスト』二〇一八年六月八日～二〇一九年二月八日
- 「インタビュー 看板も京の景観も醜い」『京都新聞』二〇一八年六月二〇日
- 「長崎・出島の「女人禁制」」『サンデー毎日』二〇一八年七月
- 「夢分かち合い文化支える」『読売新聞』二〇一八年七月二〇日
- 「インタビュー 「芸術作品」という言い訳」『週刊ポスト』二〇一八年八月
- 「関西人の「東京ざらい」は一筋縄ではいかならぬ」『SAPRO』五九九号 二〇一八年九月
- 「京都と文化庁」『KOKEN』六六一号 二〇一八年九月
- 「インタビュー 千年の都は「鬼門」と「天皇」で歩く」『サライ』六四一号 二〇一八年九月
- 「建築の王政復古——一八世紀末の再現王宮を、どうとらえるか——」御厨貴編著、井上章一、磯田道史、河野有理、前田亮介、佐々木雄一、佐藤信、五百旗頭薫、国分航士、原武史著『天皇の近代 明治一五〇年・平成三〇年』千倉書房 二〇一八年九月 一頁～二〇頁
- 「書評 胃袋の近代」『日本経済新聞』二〇一八年一〇月六日
- 「書評 遊郭に泊まる」『週刊文春』六〇巻四一号 二〇一八年一二月
- 「プロテスタント校はあなどれない——読者モデルを量産するわけ」井上章一、郭南燕、川村信三著『ミッションスクールになぜ美人が多いのか——日本女子とキリスト教——』朝日新聞出版社 二〇一八年一二月
- 「「公共」支え合う社会に」（木ノ下智恵子、栗木智代、宮本又郎と共著）『読売新聞』二〇一八年一二月一六日
- 「The 30th Anniversary Symposium Held and Beyond 三〇周年のシンポジウムをおえて」NICHIBUNKEN NEWSLETTER No. 98 二〇一八年一二月
- 「解説 下村敦史著『告白の余白』」『幻冬舎』二〇一八年一二月
- 「解説 片山杜秀著『音楽放浪記 日本の巻』」『筑摩書房』二〇一八年一二月
- 「インタビュー 万博やってみなはれ」『朝日新聞』二〇一八年一二月七日
- 「インタビュー 大阪万博二〇二五」『毎日新聞』二〇一八年一二月一九日
- 「インタビュー 明治維新はブルジョワ革命」『読売新聞』二〇一八年一二月二〇日

「対談 古代」(倉本一宏と)『中央公論』二月号 二〇一九年一月

「インタビュー ホンマは「おもろない」大阪人」『週刊ポスト』二〇一九年一月

「なにわ商人の高度な文化に光をあてた」『遼』七〇号 二〇一九年一月

「書評 京都がわかる三冊―日本史の新常識」『週刊文春』六一巻一号 二〇一九年一月三日

「書評 給食の歴史」『日本経済新聞』二〇一九年一月五日

「世界の中で日本を考える」(連載三回)『みやぎ中央新聞』二〇一九年一月二八日～二〇一九年三月二五日

「ヤマトタケル研究の新しい可能性―同性愛と性別越境の比較をめぐって」―倉本一宏編『説話研究を拓く―説話文学と歴史史料の間に―』思

文閣出版 二〇一九年二月

「インタビュー レッテル上等 波に乗れ」『日経MJ』二〇一九年二月

「講演要旨 本でまなぶこと 街が教えてくれること」『国立国会図書館月報』六九五号 二〇一九年三月

「またも負けたか八連隊」『公研』五七巻三号 二〇一九年三月

「インタビュー 歴史街道クローズアップ」『歴史の旅人』九八号 二〇一九年三月

「講演要旨 洛中洛外歴史紀行」『微笑』三九号 二〇一九年三月

「書評 半歩遅れの読書術」(連載五回)『日本経済新聞』二〇一九年三月二日～二〇一九年三月三〇日

「鼎談 万博 関西に再び脚光」(池坊専好、松本正義と)『読売新聞』二〇一九年三月一日

牛村 圭

● 著書

『文明と身体』(編著) 臨川書店 二〇一八年一〇月 二九二頁

● 論文

「文明、身体、そしてオリンピック―大森兵藏『オリンピック式陸上運動競技法』の周辺」牛村圭編『文明と身体』臨川書店 二〇一八年一〇月

一三九頁～一七一頁

「東條英機の東京裁判」(福永清貴他と共著)『比較法制研究』四一号(篠原敏雄教授 追悼号) 国士館大学比較法制研究所 二〇一八年一二月
一七七頁～二二七頁(依頼論文)

●その他の執筆活動

「五六年ぶりの宴のまえに―ふたたび迎える東京五輪」(屋山太郎他と共著)『日本戦略研究フォーラム季報』Vol.78 二〇一八年一〇月
「インタビュー」「好奇心が育まれた」―母校をたずねる千葉県立船橋高『毎日新聞』二〇一九年一月一六日

「センター通信」基礎領域研究「英文日本歴史研究書講読」を開講・担当して『日文研』六二号 二〇一九年三月

榎本 渉

●著書

『石井正敏著作集二 遣唐使から巡礼僧へ』(石井正敏著、村井章介、河内春人と共編)勉誠出版 二〇一八年七月

●論文

「テムルの日本招諭と一山一寧・燕公楠」『史学研究』三〇〇号 広島史学研究会 二〇一八年七月 三〇頁～五八頁(依頼論文)

「高麗文宗が求めた医師」倉本一宏編『説話研究を拓く―説話文学と歴史史料の間に―』思文閣出版 二〇一九年二月 六九頁～七三頁

「東シナ海の航海を護る済州島の羅漢」『歴博』二二三号 国立歴史民俗博物館 二〇一九年三月 七頁～一〇頁(依頼論文)

●その他の執筆活動

「唐、宋、元時期」(中国語)金国平、貝武権編『双嶼港史料選編』日文巻 海軍出版社 二〇一八年五月

「日宋交流と禅僧」『中外日報』二〇一八年一〇月

「遣唐使廃止でも日中交流は花盛り」文藝春秋編『日本史の新常識』二〇一八年一月

「日宋・日元貿易の展開」高橋典幸、五味文彦編『中世史講義―院政期から戦国時代まで』筑摩書房 二〇一九年一月

大塚 英志

● 著書

『大政翼賛会のメディアミックス「翼賛一家」と参加するファシズム』平凡社 二〇一八年二月 三〇四頁

『手塚治虫と戦時下メディア理論 文化工作・記録映画・機械芸術』星海社 二〇一八年二月 四六三頁

● 論文

「下東みの助の運命―戦時下の編集の人間とその生き方―」早稲田文学会、大塚英志編『早稲田文学』二〇一八年四月 二一九頁～二三九頁

● その他の執筆活動

「エッセイ 妖怪学批判」(連載二回)『怪』二〇一八年四月～二〇一八年一〇月

「まんがでわかるまんの描き方」(連載一〇回)(砂威・浅野龍哉と共著)『ヤングエース』二〇一八年四月～二〇一九年一月

「恋する民俗学者2nd シーズン」(第9話～第13話)(中島千晴と共著)『ComicWalker』二〇一八年四月～二〇一八年十二月

「書評 西田亮介『情報武装する政治』」『週刊ポスト』二〇一八年四月

「エッセイ 平成三〇年論第三回…アメ・ドラと終わらない「ごっこ」の時代」『ジセダイ』二〇一八年四月

「書評 與那覇潤『知性は死なない 平成の鬱をこえて』」『週刊ポスト』二〇一八年六月

「小説家井伏鱒二再考」『公明新聞』二〇一八年六月三日

「インタビュー 翼賛に通じる「共有」賛美」『朝日新聞』二〇一八年六月一五日

「エッセイ 平成三〇年論第四回…「停滞する今」のことを考えていたのではないが、考えていたことにする七月」『ジセダイ』二〇一八年八月

「書評『手塚マンガで憲法九条を読む』」『週刊ポスト』二〇一八年八月

「戦時下、マンガを動員に利用」『朝日新聞』二〇一八年八月二日

「インタビュー 大塚英志氏が語るセゾングループと堤清二」(連載三回)『日経ビジネスオンライン』二〇一八年一〇月二三日～二〇一八年

一〇月二五日

「書評『大江健三郎全小説3』」『週刊ポスト』二〇一八年十一月

- 「まんが訳 酒吞童子繪卷1・2」（山本忠宏ゼミと現代語訳・編著）『Comic Walker』二〇一八年十二月
 「書評 大塚英志『大政翼賛会のメディアミックス 「翼賛一家」と参加するファシズム』』『週刊ポスト』二〇一八年十二月
 「まんが訳 酒吞童子繪卷3」（山本忠宏ゼミと現代語訳・編著）『Comic Walker』二〇一九年一月
 「インタビュー 対話より共感で一体化、リスクは歴史で明らか」『朝日新聞』二〇一九年一月一日
 「インタビュー 感情が政権と一体化、近代に失敗しすぎた日本」『朝日新聞デジタル』二〇一九年一月二日

楠 綾子

●その他の執筆活動

- 「自由で開かれたインド太平洋戦略」「従軍慰安婦問題合意」「日印原子力協定」「2016年日露平和条約締結交渉」「日米歴史和解（オバマ大統領の広島訪問、安倍首相の真珠湾慰霊訪問）」「日本への理解と信頼の促進に向けた取組」「イミダス「外交」2018年版」二〇一八年四月

倉本 一宏

●著書

- 『現代語訳小右記6 三条天皇の信任』吉川弘文館 二〇一八年四月 三六六頁
 『古代史から読み解く「日本」のかたち』（里中満智子と共著）祥伝社 二〇一八年五月 二四八頁
 『尾駿の駒・牧の背景を探る』（六ヶ所村「尾駿の牧」歴史研究会編、共著）六一書房 二〇一八年七月 二五五頁
 『日記で読む日本史3 宇多天皇の日記を読む』（監修、古藤真平著）臨川書店 二〇一八年八月 二七二頁
 『日本史の論点』（中公新書編集部編、共著）中央公論新社 二〇一八年八月 二八八頁
 『戦乱と民衆』（磯田道史、フレデリック・クレインス、呉座勇一と共著）講談社 二〇一八年八月 二〇四頁
 『現代語訳小右記7 後一条天皇即位』吉川弘文館 二〇一八年一〇月 三五七頁
 『「ためし」から読む更級日記』（監修、石川久美子著）臨川書店 二〇一八年一〇月 二一六頁

『御堂関白記』の研究』思文閣出版 二〇一八年一月 三八八頁

『日本史の新常識』（文藝春秋編、共著）文藝春秋 二〇一八年十一月 二二八頁

『内戦の日本古代史』講談社 二〇一八年十二月 三四三頁

『説話研究を拓く―説話文学と歴史史料の間に―』（編）思文閣出版 二〇一九年二月 六〇〇頁

●論文

『藤原道長と馬、そして尾駿の駒』六ヶ所村「尾駿の牧」歴史研究会編、堀井佳代子と共著『尾駿の駒・牧の背景を探る』六一書房 二〇一八年七月 九五頁―一〇三頁

『白村江の戦と民衆』磯田道史、倉本一宏、フレデリック・クレインス、呉座勇一著『戦乱と民衆』講談社 二〇一八年八月 一〇頁―三一頁

『コノ話ハ蓋シ小右記ニ出シナラン』考―『小右記』と説話との間に― 倉本一宏編『説話研究を拓く―説話文学と歴史史料の間に―』思文閣出版 二〇一九年二月 七七頁―一一〇頁

●その他の執筆活動

「この国のかたちを考える」「天皇について考える」「政治と権力闘争を考える」「戦争と外交を考える」倉本一宏、里中満智子著『古代史から読み解く「日本」のかたち』祥伝社 二〇一八年五月

「インタビュ― 蘇我氏と藤原氏の繁栄させた「最新技術」」『文藝春秋』二〇一八年六月号 二〇一八年六月

「インタビュ― なぜ、藤原氏は日本史の「主役」なのか？」『歴史REAL藤原氏』二〇一八年六月

「エッセイ 還暦ということ」『京都新聞』二〇一八年七月三日

「インタビュ― 必要のなかった戦い・・・それでも日本は大きく変わった」『歴史街道』平成三〇年八月号 二〇一八年七月六日

「エッセイ 読書アンケート」『歴史書通信』二〇一八年九月号 二〇一八年八月

「対談 徹底討論 邪馬台国は「三世紀の明治維新」だ」（保立道久、寺沢薫と）『文藝春秋』二〇一八年九月号 二〇一八年八月

「解説 一五分で読む天皇の歴史」『人文会ニュース』一二九号 二〇一八年八月

「エッセイ マイルスとコルトレイン」『京都新聞』二〇一八年八月二八日

「エッセイ 戦乱は民衆にとって何だったのか」『本』二〇一八年九月号 二〇一八年九月

「インタビュー 史書を訪ねて『御堂閔白記』」『読売新聞』二〇一八年九月一八日

「エッセイ 余は如何にして『御堂閔白記』研究者となりし乎」『鴨東通信』二〇一八年一〇月

「エッセイ タイガー・イズ・バック」『京都新聞』二〇一八年一〇月一〇日

「蘇我氏と藤原氏が繁栄させた「最新技術」」文藝春秋編『日本史の新常識』文藝春秋 二〇一八年一月

「壬申の乱の陰に「唐」vs「新羅」の戦争」文藝春秋編『日本史の新常識』文藝春秋 二〇一八年一月

「本当は激務だった平安貴族」文藝春秋編『日本史の新常識』文藝春秋 二〇一八年一月

「平安貴族がわかる3冊」『週刊文春』二〇一八年十二月

「エッセイ 私と東北と内戦と」『講談社 Web 現代経済』二〇一八年十二月

「インタビュー 史書を訪ねて『日本書紀』」『読売新聞』二〇一八年十二月二五日

「エッセイ 内戦の日本史」『京都新聞』二〇一八年十二月二七日

「対談 古代（井上章一と）『中央公論』二月号 二〇一九年一月

「序」倉本一宏編『説話研究を拓く―説話文学と歴史史料の間に―』思文閣出版 二〇一九年二月

「千年前、日本が初めて侵攻された日―刀伊の入寇」『歴史街道』二〇一九年二月

「対談 日本史の「主役」をつかんだ藤原氏」（紺野美沙子と）『ひととき』二〇一九年二月

フレデリック・クレインス

● 著書

『戦乱と民衆』（磯田道史、倉本一宏、呉座勇一と共著）講談社 二〇一八年八月 二〇四頁

● 論文

「オランダ人が見た大坂の陣」磯田道史、倉本一宏、フレデリック・クレインス、呉座勇一著『戦乱と民衆』講談社 二〇一八年八月 五三頁

“Jacques Specx in Hirado (1609-1621): laverend tussen handel en kaapvaart.” (オランダ語) Wim Boot ed., *Vergzichten: Nederlands-Japanse Vereniging Lustreboek*, Uitgeverij Gingko, September 2018, pp. 11-35 (査読付き)

「機械論と蘭学者の身体観」牛村圭編『文明と身体』臨川書店 二〇一八年一〇月 六七頁〜九八頁

●その他の執筆活動

「インタビュー 「日本の歴史」 オランダ目線で翻訳」『朝日新聞』二〇一八年五月二三日

「インタビュー 戦国から幕末 西洋人は見た 日文研 当時の図書収集し目録」『読売新聞』（夕刊）二〇一八年七月一九日

「インタビュー 西洋文献で開国前知る」『京都新聞』二〇一八年八月一日

「大坂の陣の講和は、家康の陰謀だったのか？オランダの史料に問いを解く鍵がある」『現代ビジネス』二〇一八年九月

「リンスホーテン『東方案内記』標題紙（英語版、ロンドン、一五九八年刊）『日文研』六一号 二〇一八年一〇月

吳座 勇一

●著書

『戦乱と民衆』（磯田道史、倉本一宏、フレデリック・クレインスと共著）講談社 二〇一八年八月 二〇四頁

●論文

「初期室町幕府には、確固たる軍事制度があったか？」亀田俊和編『初期室町幕府研究の最前線』洋泉社 二〇一八年六月 三〇頁〜四六頁（査読付き）

「応仁の乱と足軽」磯田道史、倉本一宏、フレデリック・クレインス、吳座勇一著『戦乱と民衆』講談社 二〇一八年八月 三三頁〜五一頁

「室町の「政事」と一揆」前田雅之編『画期としての室町 政事・宗教・古典学』勉誠出版 二〇一八年一〇月 二七頁〜五一頁（査読付き）

「戦国の動乱と一揆」高橋典幸、五味文彦編『中世史講義―院政期から戦国時代まで』筑摩書房 二〇一九年一月 二二七頁〜二三二頁（査読付き）

「十五世紀の伏見稲荷社に関する雑考」『朱』六二号 伏見稲荷大社 二〇一九年一月 二一頁～二五頁（依頼論文・査読付き）
 「足利安王・春王の日光山逃避伝説の生成過程」倉本一安編『説話研究を拓く―説話文学と歴史史料の間に―』思文閣出版 二〇一九年二月
 一七二頁～一七八頁

●その他の執筆活動

「エッセイ 歴史の世界もフェイクニュースだらけ…巷に蔓延る「陰謀論」に騙されるな」『Voice』486号 二〇一八年六月
 「現代のことば」（連載五回）『京都新聞』二〇一八年七月一日～二〇一九年三月五日
 「対談 「陰謀論」蔓延 ゆがむ歴史」（細谷雄一と）『読売新聞』二〇一八年八月二〇日
 「呉座勇一の歴史家雑記」（連載二七回）『朝日新聞』二〇一八年九月三日～二〇一九年三月二五日
 「書評 早島大祐著『徳政令』」『茨城新聞』二〇一八年一〇月七日
 「対談 歴史と現代を捉える新たな視座」（井出明と）『潮』七二〇号 二〇一九年二月
 「インタビュー 歴史学者・呉座勇一氏「先見えず」中世と類似―平成って」『日本経済新聞』（夕刊）二〇一九年二月四日
 「エッセイ 史料を読むということ」『日文研』六二号 二〇一九年三月

小松 和彦

●著書

『鬼と日本人』KADOKAWA 二〇一八年七月 二七二頁
 『妖怪たちのいるところ』KADOKAWA 二〇一八年十一月 九六頁

●論文

「二つの「一つ家」―国芳と芳年の「安達ヶ原」をめぐるって」徳田和夫編『東の妖怪・西のモンスター 想像力の文化比較』勉誠出版 二〇一八年七月 四六頁～七二頁（査読付き）
 「日本の鬼とはなにか」『한·일 도깨비의 세계문화적 위상』을 위한 국제 세미나 “심진강 도깨비마을” 二〇一八年一〇月一日 七頁～一九

頁 (依頼論文)

「동아시아 문화사 재고」, '요괴적인 것'과 실크로드―(東アジア文化史再考―「妖怪的なもの」とシルクロード)―(韓国語) 한양대일본학 국제비교연구소 (漢陽大日本学国際比較研究所) 『요괴 또 하나의 일본의 문화코드』 역략 二〇一九年二月 一七頁〜二九頁 (査読付き)

●その他の執筆活動

「日本研究の総本山・国際日本文化研究センター三〇年の軌跡」『nippon.com』 二〇一八年四月

「インタビュー 千二百年の都にうごめく魍魎魍魎の世界 もうひとつの京都の扉を開ける」『裏・京都の魔界を往く』 二〇一八年四月

「解説 焼畑をする最後のむら・椿山の貴重なエスノグラフィ」『焼畑のむら 昭和四五年、四国山村の記録』 二〇一八年四月

「インタビュー 日本文化の根っこを探る」(櫻田謙悟他と)『リーダーの本棚 決断を支えた一冊』 二〇一八年五月

「解説『真景累ヶ淵』 二〇一八年六月

「インタビュー 特集「刀剣怪談」『幽』VOL. 29 二〇一八年六月

「こころの玉手箱」(連載五回)『日本経済新聞』(夕刊) 二〇一八年六月四日〜二〇一八年六月八日

「インタビュー 私の時間デザイン 日本人の意識と文化の深層に根差す妖怪、そして時間・空間」(張士洛と)『時間デザイン』 二〇一八年八月

「郷土史家が書き留めた戦後京都市域の歳時記・風俗誌」『緑紅叢書 (パンフレット)』 二〇一八年九月

「エッセイ 妖狐をめぐる多義的で豊饒な伝承世界」『TAKARAZUKA』 二〇一八年一〇月

「インタビュー 水木しげるの大先生の未発表原稿をまとめた『妖怪たちのいるところ』刊行！小松和彦先生インタビュー」『怪』vol. 0063 二〇一八年一二月

「対談 新春対談 時代を語る」(こころの史代と)『京都新聞』 二〇一九年一月三日

「講演資料等「玉箱」について」『東アジア文化都市 2018 金沢展覧会「工芸×霊性」』 二〇一九年三月

白石 恵理

● 著書

Reevaluating Translation as a Driving Force of Scholarship (『国際シンポジウム「翻訳の再評価…学問を深める原動力」報告書』) 国際シンポジウム 52 (バトリシア・フィスター監修、リン・リッグスと共編) 国際日本文化研究センター 二〇一九年二月 二八〇頁

『日本研究をひらく―「国際日本研究」コンソーシアム記録集 2018』(坪井秀人、小田龍哉と共編) 晃洋書房 二〇一九年三月 一九六頁

● 論文

「第四章 ド・ロ版画にみる日本イメージの受容と展開」郭南燕編著『ド・ロ版画の旅―ヨーロッパから上海・長崎への多文化的融合』創樹社美術出版 二〇一九年三月 一〇九頁～一三九頁

● その他の執筆活動

「持続可能な「情報発信」をめざして」*NICHIBUNKEN NEWSLETTER* No. 97 二〇一八年七月

関野 樹

● 論文

「デジタル歴史地名辞書の公開とその活用」『研究報告人文科学とコンピュータ (CH)』2018-CH-118 (9) 二〇一八年八月 一頁～四頁

“Representation and comparison of uncertain temporal data based on duration” *Proceedings of 2018 Pacific Neighborhood Consortium Annual Conference and Joint Meetings (PNC)*, October 2018, pp. 58-63 (査読付き)

「Linked Data におけるあじまな時間の記述」『じんもんこん 2018 論文集』二〇一八年十一月 三〇三頁～三〇八頁 (査読付き)

● その他の執筆活動

「人文情報学」の研究環境を考える『研究報告人文科学とコンピュータ (CH)』2018-CH-117 (13) 二〇一八年五月

「時間とオープンデータ」*NICHIBUNKEN NEWSLETTER* No. 98 二〇一八年十二月

「エッセイ データベースからデータへ」『日文研』六二号 二〇一九年三月

「対談 正確なものさしを作る者と曖昧なものさしを活かす者」(中塚武と)『Humanity & Nature Newsletter (地球研ニュース)』No. 76
二〇一九年三月

「歴史データにおける時空間情報の活用」国立歴史民俗博物館監修、後藤真・橋本雄太編『歴史情報学の教科書』二〇一九年三月

瀧井 一博

●論文

「伊藤博文」筒井清忠編『明治史講義【人物編】』筑摩書房 二〇一八年四月 九九頁～一二二頁

「開港期神戸と初代兵庫県知事伊藤博文」『神戸市史紀要 神戸の歴史』第二十七号 二〇一八年十二月 三頁～二七頁(依頼論文)

●その他の執筆活動

「政治学の古典を読む(二三) 明治日本への叛逆(田中角栄『日本列島改造論』日刊工業新聞社、一九七二年)」『究』第八六号 二〇一八年五月

「『シュタイン詣で』を覚えてくれた人」『遼』第六八号 二〇一八年七月

「現代のことば(連載四回)『京都新聞』二〇一八年七月二六日～二〇一九年一月二九日

「政治学の古典を読む(二四) 神話の政治化への理性の挑戦(エルンスト・カッシーラー(宮田光雄訳)『国家の神話』講談社学術文庫、

二〇一八年)」『究』第八九号 二〇一八年八月

「書評 湯川文彦『立法と事務の明治維新―官民共治の構想と転換―』『史学雑誌』第一二七編第一〇号 二〇一八年一〇月

「政治学の古典を読む(二五)『正統』をめぐる争い(美濃部達吉『憲法講話』ゆまに書房、二〇〇三年)」『究』第九二号 二〇一八年十一月

「政治学の古典を読む(二六) 創設の政治学(ハンナ・アレント(志水速雄訳)『革命について』ちくま学芸文庫、一九九五年)」『究』第九五号

二〇一九年二月

「〈センター通信〉第五三回国際研究集会「世界史のなかの明治／世界史にとっての明治」を実施して」『日文研』二〇一九年三月

坪井 秀人

● 著書

- 『戦後日本を読みかえる1 敗戦と占領』（編著）臨川書店 二〇一八年六月 二八八頁
- 『戦後日本を読みかえる6 バブルと失われた二〇年』（編著）臨川書店 二〇一八年六月 二六四頁
- 『戦後日本を読みかえる2 運動の時代』（編著）臨川書店 二〇一八年七月 二二二頁
- 『戦後日本を読みかえる5 東アジアの中の戦後日本』（編著）臨川書店 二〇一八年七月 二七六頁
- 『戦後日本を読みかえる3 高度経済成長の時代』（編著）臨川書店 二〇一九年三月 二二〇頁
- 『戦後日本を読みかえる4 ジェンダーと生政治』（編著）臨川書店 二〇一九年三月 二九四頁
- 『世界のなかの〈ポスト311〉 ヨーロッパと日本の対話』（シュテフィ・リヒター、マルティン・ロートと共編）新曜社 二〇一九年三月 三三八頁

『日本研究をひらく―「国際日本研究」コンソーシアム記録集2018』（白石恵理、小田龍哉と共編）晃洋書房 二〇一九年三月 一九六頁

● 論文

- 「『月に吠える』は吠え続ける」『SAKU（萩原朔太郎研究会会報）vol.83 二〇一八年五月 五四頁〜七五頁（依頼論文）
- 「序言」坪井秀人編『戦後日本を読みかえる1 敗戦と占領』臨川書店 二〇一八年六月 一頁〜九頁
- 「序言」坪井秀人編『戦後日本を読みかえる6 バブルと失われた二〇年』臨川書店 二〇一八年六月 一頁〜七頁
- 「ポストバブルの「アブジェクト」―『キッチン』から『OUT』へ」坪井秀人編『戦後日本を読みかえる6 バブルと失われた二〇年』臨川書店 二〇一八年六月 一三三頁〜一六三頁

「序言」坪井秀人編『戦後日本を読みかえる2 運動の時代』臨川書店 二〇一八年七月 一頁〜九頁

「序言」坪井秀人編『戦後日本を読みかえる5 東アジアの中の戦後日本』臨川書店 二〇一八年七月 一頁〜一二頁

“Herz und Mund und Tat und Terrorismus”, Alexander Murphy (translator), *Inter-Asia Cultural Studies* 19, October 2018, pp. 526-535（依頼論文・査読付き）

“Listening to Poetry: The Call of the Poetry Reading Record”『国立国会図書館歴史的音源ウェブサイト』二〇一九年三月（依頼論文）

「エビローグ」坪井秀人、シュテフィ・リヒター、マルティン・ロート編『世界のなかの（ポスト3.11）』ヨローロッパと日本の対話』新曜社
二〇一九年三月 三二五頁〜三三五頁

「生者と生きる―（ポスト3.11）の死者論言説」坪井秀人、シュテフィ・リヒター、マルティン・ロート編『世界のなかの（ポスト3.11）』ヨローロッパと日本の対話』新曜社 二〇一九年三月 一六九頁〜一八九頁

「序言」坪井秀人編『戦後日本を読みかえる3 高度経済成長の時代』臨川書店 二〇一九年三月 一頁〜九頁
「序言」坪井秀人編『戦後日本を読みかえる4 ジェンダーと生政治』臨川書店 二〇一九年三月 一頁〜九頁

●その他の執筆活動

「解説 概観二〇一七年 日本文学《近代》」日本文藝家協会編『文藝年鑑2018』二〇一八年六月

「戦後日本文化再考」を再考する」NICHIBUNKEN NEWSLETTER No. 97 二〇一八年七月

「강학의 근대소리・신체・표상」(韓国語訳：朴光賢、孫知延、辛承模、李承俊) 어문학사 二〇一八年十一月

バトリシア・フィスター

●著書

Reevaluating Translation as a Driving Force of Scholarship (『国際シンポジウム「翻訳の再評価：学問を深める原動力」報告書』) 国際シンポジウム

52 (監修：白石恵理、リン・リックス編) 国際日本文化研究センター 二〇一九年二月 二八〇頁

●論文

“Commemorating Life and Death: The Memorial Culture Surrounding the Kinzai Zen Nun Mugai Nyodai.” Karen M. Gerhart ed., *Women, Rites and*

Objects in Pre-modern Japan, Brill, June 2018, pp. 269–303 (査読付き)

“Nichibunken Monograph Series.” (バトリシア・フィスター監修、白石恵理、リン・リックス編) *Reevaluating Translation as a Driving Force of Scholarship* (『国際シンポジウム「翻訳の再評価：学問を深める原動力」報告書』) 国際シンポジウム 52 国際日本文化研究センター

二〇一九年二月 四七頁～五二頁

ジョン・グリーン

●論文

「明治天皇の勲章外交と宮廷文化の国際性」『季刊悠久』第一五三号 鶴岡八幡宮 二〇一八年五月 一〇五頁～一一六頁（依頼論文・査読付き）

“‘Lies and yet more lies’: Fukusai Habian’s ‘On Shinto.’, *Japanese Religion* 42:1.2, NCC Center for the Study of Japanese Religions, June 2018, pp. 87-105（依頼論文・査読付き）

「近代天皇制と大森問題」高木博志編『近代天皇制と社会』思文閣 二〇一八年一〇月 四〇五頁～四三二頁（査読付き）

「明治維新に見る伊勢神宮…空間的変貌の過程」岩田真美、桐原健真編『カミとホトケの幕末維新』法蔵館 二〇一八年一一月 二二九頁～二五五頁（査読付き）

「天皇と国民と神宮大森…モノから歴史を考える」『歴史の理論と教育』150/151合併号 名古屋歴史科学研究会 二〇一八年一二月 二一頁～三〇頁（依頼論文・査読付き）

“‘El emperador ha habido’ (スペイン語) *Vanguardia Dossier: 71 Japón debilidad y Fortaleza*, Vanguardia, December 2018, pp. 39-42（依頼論文・査読付き）

●その他の執筆活動

「Japan Review 編集長の務め」『報告：第二回 紀要編集者ネットワークセミナー』二〇一八年四月

「サー・ハリー・パークスと明治天皇」『維新の道』一七二号 霊山歴史館 二〇一九年一月

“On Translating Primary and Secondary Sources: The Authentic and the Accessible.”（パトリシア・フィスター監修、白石恵理、リン・リックス編）*Reevaluating Translation as a Driving Force of Scholarship*（『国際シンポジウム「翻訳の再評価：学問を深める原動力」報告書』国際シンポジウム 52 国際日本文化研究センター 二〇一九年二月 四七頁～一五九頁）

Japan Review vol.32 (2019), ed., International Research Center for Japanese Studies, February 2019, 243 pages.

Japan Review vol.33 Special Issue: *War, Tourism and Modern Japan* (2019), John Breen, Andrew Elliott, Daniel Milne eds., International Research Center for Japanese Studies, March 2019, 297 pages.

古川 綾子

●その他の執筆活動

「吉本興業お笑い新時代（中）劇場が原点・芸も経営も、収益超えるメリット」『読売新聞』二〇一八年七月一七日

細川 周平

●論文

「戦前のタップダンス界―国粹主義下のアメリカニズム」ボナヴェントゥーラ・ルペルティ編著『日本の舞台芸術における身体―死と生、人形と人工体』晃洋書房 二〇一九年三月 二二三頁～二四五頁

●その他の執筆活動

“Tien muziekmomenten die Shuhai Hosokawa's Leven veranderen, (オランダ語) *Tien muziekmomenten die mijn leven veranderen*, Deknipscheer, April 2018

「エッセイ 田中泯 meets 中村達也」『Realkyoto』二〇一八年七月

「エッセイ 打ち上げの定番として」『吉田屋とわたしたち』二〇一八年九月

「アイハウスで語る日系ブラジル文化」*NICHIBUNKEN NEWSLETTER* No. 98 二〇一八年十二月

「エッセイ ジャズを辞書―モダン昭和の流行語」『日文研』六二号 二〇一九年三月

「キネマ館の少女」『京都新聞』二〇一九年三月三日

前川 志織

● 著書

『動態としての「日本」大衆文化史 キャラクターと世界』（国際日本文化研究センタープロジェクト推進室として共編） 国際日本文化研究センタープロジェクト推進室 二〇一八年一〇月 七七頁

● 論文

「近代日本の広告図像における少女の表象とその受容」『DNP文化振興財団学術研究助成紀要』 二〇一八年一月 一四八頁～一五七頁（依頼論文）

「雑誌『時事漫画 非美術画報』にみるカリカチュアと図案」並木誠士編『近代京都の美術工芸…制作・流通・鑑賞』 思文閣出版 二〇一九年三月 三一七頁～三五〇頁

● その他の執筆活動

「近代日本のグラフィック広告にみる「キャラクター」と「世界」」国際日本文化研究センタープロジェクト推進室編『動態としての「日本」大衆文化史 キャラクターと世界』 二〇一八年一〇月

松田 利彦

● 著書

『第五一回 国際研究集会報告書』植民地帝国日本における知と権力』（編著） 国際日本文化研究センター 二〇一八年一〇月 四六頁

『植民地帝国日本における知と権力』（編著） 思文閣出版 二〇一九年二月 九四九頁

● 論文

「統治機構と官僚・警察・軍隊」日本植民地研究会編『日本植民地研究の論点』岩波書店 二〇一八年七月 一三頁～二二頁（査読付き）

「戦時期植民地朝鮮における防空体制の形成—警防団を中心に」『歴史評論』八二〇号 歴史科学協議会 二〇一八年八月 四六頁～五八頁

「知と権力」からみた植民地帝国—朝鮮史研究における成果と課題」松田利彦編『植民地帝国日本における知と権力』 思文閣出版 二〇一九年

二月 二三頁～六四頁

「志賀潔とロックフェラー財団―京城帝国大学医学部長時代の植民地朝鮮の医療衛生改革構想を中心に」松田利彦編『植民地帝国日本における知と権力』思文閣出版 二〇一九年二月 五二三頁～五六六頁

「一九五〇年代末～一九六〇年代 在日韓国人の民族統一運動―統一朝鮮新聞の分析を軸으로」(韓国語) 청암대학교 재일코리아연구소編『재일코리아의 歴史的認識과 役割』図書出版ソニン 二〇一九年二月 一八三頁～二一〇頁

「武断統治期、朝鮮の憲兵警察과 衛生行政―衛生組合을 中心으로」(韓国語) 韓国歴史研究会三・一運動一〇〇周年企画委員会編『三・一運動一〇〇年叢書』第3巻(権力과 政治) 휴머니스트 二〇一九年三月 一〇三頁～一四三頁(査読付き)

「震災と外国人マイノリティー―阪神淡路大震災と東日本大震災を比較して」坪井秀人、シュテフィ・リヒター、マルティン・ロート編『世界のなかの「ポスト3.11」』ヨーロッパと日本の対話』新曜社 二〇一九年三月 一二一頁～一三八頁

●その他の執筆活動

「書評 荻野富士夫『日本憲兵史―思想憲兵と野戦憲兵』(日本経済評論社、二〇一八年)」「図書新聞」三三五八号 二〇一八年七月

「近現代史の人物史料情報松井茂」(二〇一八年)『日本歴史』第八四三号 吉川弘文館 二〇一八年八月

「上内彦策」松井茂「水野鍊太郎」「佐藤剛藏」「明石元二郎」「芳賀栄次郎」(韓国語) 高麗大学校グローバル日本研究院在朝日本人情報辞典編纂委員会編『開化期・日帝強占期(一八七六～一九四五) 在朝日本人情報辞典』二〇一八年八月

「はじめに」松田利彦編『(第五一回) 国際研究集会報告書 植民地帝国日本における知と権力』二〇一八年一〇月

「序」「解説」松田利彦編『植民地帝国日本における知と権力』思文閣出版 二〇一九年二月

「鄭鍾賢「日本の帝国大学における朝鮮人留学生の状況と帝国知識の連続」非連続―東京帝国大学卒業生崔應錫、李萬甲の事例を中心に」(金玄と共訳) 松田利彦編『植民地帝国日本における知と権力』思文閣出版 二〇一九年二月

「序」坪井秀人、白石恵理、小田龍哉編『日本研究をひらく―「国際日本研究」コンソーシアム記録集2018』晃洋書房 二〇一九年三月

安井 眞奈美

● 著書

『괴이와 신체의 일본문화——이 계로부터 출산과 양육을 되문다 (怪異と身体の民俗学——異界から出産と子育てを問い直す)』 민속원 아르케북스 128 (김용의, 김희영, 송영숙, 주혜정, 최가진 (옮긴이)), 민속원 二〇一九年三月 三〇一頁

● 論文

「出産の「痛み」を語る声——陣痛から医療処置の痛みへ」橘弘文、手塚恵子編『文化を移す鏡を磨く——異人・妖怪・フィールドワーク』せりか書房 二〇一八年七月 二七七頁〜二九三頁

“Where yōkai enter and exit the human body: from medieval picture scrolls to modern folktales in Japan” (Translated by Christopher REEVES) *Studies in Japanese Literature and Culture* volume 2 人間文化研究機構 国文学研究資料館 二〇一九年二月 六一頁〜七二頁 (依頼論文)

『主婦之友』別冊附録にみる女性の身体」坪井秀人編『戦後日本を読みかえる4 ジェンダーと生政治』臨川書店 二〇一九年三月 一七二頁〜一九一頁

● その他の執筆活動

「エッセイ 妖怪とジェンダー——妖怪に性別はあるのか？」『怪』vol. 0052 二〇一八年三月

「解説 安井眞奈美著『怪異と身体の民俗学——異界から出産と子育てを問い直す』」澤野美智子編著『医療人類学を学ぶための六〇冊——医療を通して「当たり前」を問い直そう』明石書店 二〇一八年四月

「死別の悲しみ 癒そう」『読売新聞』(夕刊) 二〇一八年四月二日

「別れの悲しみに寄り添い二一年——大切な人と共に生きた証」『産経新聞』(夕刊) 二〇一八年五月二五日

「解説 日本研究指南」(中国語)『日本文学研究』28 社会科学文研出版社 二〇一八年六月

「解説 フィールドワークからの視座」『文化を移す鏡を磨く——異人・妖怪・フィールドワーク』せりか書房 二〇一八年七月

「書評 沢山美果子『江戸の乳と子ども——いのちをつなぐ』」『女性史学』二八号 二〇一八年一〇月

「エッセイ 中国旅客機の模型がもたらした国際交流」『日文研』六一号 二〇一八年一〇月

- 「身体イメージを探る―日本人の精神性と密接 妖怪の魅力に触れて」『京都新聞』他一二新聞掲載 二〇一八年一〇月二一日
- 「エッセイ 両性具有の妖怪たち」『怪』vol. 0053 二〇一八年十一月
- 「報告 日文研のこれからを考える―清華大学人文社会科学学院 汪暉教授をお招きして」『国際日本文化研究センター (Web サイト)』
二〇一九年一月
- 「日文研共同研究会「身体イメージの想像と展開」(安井・マルソー代表 第四回「海外における身体研究の現状」を開催しました」『国際日本文化研究センター (Web サイト)』 二〇一九年二月
- 「エッセイ 金関恕先生と天理大学考古学・民俗学研究室」『春の日に―金関恕先生追悼文集』 二〇一九年三月
- 「解説 「海外における日本研究の動向と展望」の趣旨説明」『阪大グローバルクラスター報告書』2 二〇一九年三月
- 「対談 ラウンドテーブル・総合討議」(金水敏他と)『日本研究をひらく―「国際日本研究」コンソーシアム記録集2018』晃洋書房 二〇一九年三月

山田 奨治

● 著書

『びわ湖のほとりて三五年続くすごい授業 滋賀大附属中学校が実践してきた主体的・対話的で深い学び』(滋賀大学教育学部附属中学校と共著) ミネルヴァ書房 二〇一八年九月 一七八頁

『改訂版 弓具の雑学事典』(日本武道学会・弓道専門分科会ほかと編著) 日本芸芸社 二〇一九年二月 二八七頁

● 論文

「遊び、祈り、売る―村上隆の〈仏教アート〉と〈ポスト311〉の文脈」坪井秀人、シュテフィ・リヒター、マルティン・ロート編『世界のなかの〈ポスト311〉 ヨーロッパと日本の対話』新曜社 二〇一九年三月 二八一頁〜三〇〇頁

● その他の執筆活動

「インタビュー JASRAC「音楽教室からも徴収開始」に猛反発」『東京スポーツ』 二〇一八年四月五日

「日本の禅、世界のZEN」高馬京子、松本健太郎編『越境する文化・コンテンツ・想像力 トランスナショナル化するポピュラー・カルチャー』ナカニシヤ出版 二〇一八年一〇月

「書評 グレゴリー・P・A・レヴィン『長い奇妙な旅 近代の禅、禅アート、その他の範疇』『日本研究』第五八集 二〇一八年一一月

「インタビュー 海賊版サイト対策 マンガなど静止画にも ダウンロード禁止 副作用懸念」『朝日新聞』二〇一八年一一月二日

「視標 ダウンロード違法化拡大」『東奥日報』ほか一四紙以上 二〇一九年二月

「インタビュー DL違法化拡大」『弁護士ドットコムNEWS』二〇一九年二月

「講演資料等 愉悦を生きる人間く身体・文化・そして笑い」(林洋輔、森下伸也、瀧一郎と共著)『身体運動文化研究』Vol.24 No.1 二〇一九年三月

マルクス・リュッターマン

● 著書

(共編) Japonica Humboldtiana 19(2017), (ドイツ語・英語) Harrassowitz Verlag, April 2018, 233 Pages.

劉 建輝

● 著書

『日本浪漫派とアジア―保田與重郎を中心に』(呉京煥と編著) 晃洋書房 二〇一九年二月一八四頁

● その他の執筆活動

「エッセイ 明治維新に中国のお膳立て(ソフィア京都新聞文化会議619)」『京都新聞』二〇一八年八月一〇日

「インタビュー 日文研『外地』画像収集・新村出の海外絵はがき三千枚寄贈も」『京都新聞』二〇一八年九月二四日

「インタビュー 鳥瞰図・広がる領土」『京都新聞』二〇一八年一〇月二二日

「エッセイ 失われた『絆』を再構築することが日中相互理解への第一歩」『京都新聞』二〇一九年一月一日

「あとがき」 吳京煥、劉建輝編著『日本浪漫派とアジア―保田與重郎を中心に』晃洋書房 二〇一九年二月
「エッセイ」 「受け継ぐ帝国の記憶」(比較文明学会第三九回関西支部例会「大連―重層する文明・往還する文化」) 『比較文明学会第三九回関西支部例会報告』 二〇一九年三月